

監督招いた「冷静さ出た」  
比嘉元理事長



比嘉良雄さん

大昭和製紙北海道など社  
会人球団で選手、指導者と  
して全国の頂点を極めた我  
喜屋優監督を興南に引き寄  
せたのがこの人、沖縄都市  
モノレール社長の比嘉良雄  
さん(74)だ。「冷静な監督  
そのままのチーム。次も平  
常心で頑張れ」。21日の決  
勝戦は、甲子園のスタンド

で声をからすつもりだ。

比嘉さんは興南学園の元  
理事長。1995年に理事  
に就任した際、県外で活躍  
している興南卒業生を理事  
に迎えるよう提言し、選ば  
れたのが68年夏の「興南旋  
風」時の主将、我喜屋監督  
だった。

その後、比嘉さんは理事  
長になり、我喜屋監督は理  
事を下りた。しかし4年  
前、我喜屋監督が北海道の  
会社を早期退職したとい  
う報が届く。さらなるチーム  
強化のため新任の野球部監

督の招請を模索していた時  
期。比嘉さんは「天の助け  
だと思った。すぐに北海道  
に飛んでいった」。「ラブ  
コール」に応じ翌年就任し  
た我喜屋監督は、4カ月余  
りでチームを甲子園に導  
き、1勝をもぎ取った。

目を追うことに進化する  
我喜屋野球。プレーだけで  
なく、生活面でも選手を厳  
しく律する心柄に、比嘉さ  
んはほれ込む。「全国から  
注目される甲子園で指揮を  
執れるのが高校野球の指導  
者。まさに、男の本懐だ」。  
百戦錬磨の名将へ熱いまな  
ざしを注ぐ。

(新垣綾子)